

令和 8 年度第 1 回 四国中央市環境審議会 議事録

■ 開催日時・場所

令和 8 年 7 月 31 日（金） 10 時 00 分～11 時 30 分
市民交流棟 2 階会議室

■ 次 第

- 1 開会
大西市長あいさつ
- 2 委嘱状交付・委員紹介
- 3 会長・副会長の選出について
- 4 諮問
第三次四国中央市環境基本計画の策定について
- 5 議事
第三次四国中央市環境基本計画の策定について
- 6 その他
脱炭素の取組について
- 7 閉会

■ 傍聴人

一般傍聴人 なし、記者 なし

■ 会議風景



■ 出席者

役職名	所属名	氏名	出欠席
委員（会長）	愛媛県地球温暖化防止活動推進センター センター長	日野 伸二	出席
委員（副会長）	愛媛大学大学院農学研究科 教授	高橋 真	出席
委員	東予地方局四国中央保健所 衛生環境課長	白石 和子	出席
委員	愛媛県立土居高等学校 校長	山中 達也	出席
委員	長津小学校 校長	吉岡 佐織	欠席
委員	うま農業協同組合 代表理事専務	近藤 善春	欠席
委員	愛媛県漁業協同組合川之江支所 支所運営委員長	三好 猛	出席
委員	宇摩森林組合 代表理事組合長	荻田 耕一	欠席
委員	(公社)愛媛県紙パルプ工業会 専務理事	石川 雄一	出席
委員	大王製紙株式会社 生産本部 三島工場 四国業務部 部長	田井野 和也	出席
委員	愛媛製紙株式会社 総務部 部長代理	高松 春光	出席
委員	福助工業株式会社 参事 総務部長 兼 内部統制推進室長	寺尾 太一	出席
	四国中央市長	大西 賢治	出席
事務局	市民部 部長	高橋 博俊	出席
事務局	市民部 生活環境課 課長	真鍋 宏一	出席
事務局	市民部 生活環境課 副課長	川崎 繁俊	出席
事務局	市民部 生活環境課	水田 隆史	出席
事務局	市民部 生活環境課	武村 昂紀	出席

■ 議事録

1 開会

事務局の進行で開会。

大西市長のあいさつのち、市長から委員を代表して石川委員へ委嘱状が交付された。

事務局から委員の紹介を行い、続いて事務局の職員紹介を行った。

四国中央市環境審議会条例の規定に基づき、会長及び副会長の選出を行った。委員から、事務局案を提示のうえ承認する形としてはどうかとの意見があり、事務局から会長に日野委員、副会長に高橋委員を推薦する案が示され、委員の賛同により日野委員が会長に、高橋委員が副会長に選出された。

第三次四国中央市環境基本計画の策定について、市長から環境審議会に対して諮問が行われた。

日野会長及び高橋副会長より就任あいさつの後、議事進行を日野会長に引き継いだ。

2 議事

初回の審議会であることから、出席委員による自己紹介が行われ、議事へ移った。

(1) 第三次四国中央市環境基本計画の策定について

【事務局から説明】

- 1) 第三次四国中央市環境基本計画策定に向けて
 - ・ 環境基本計画について
 - ・ 環境基本計画を取り巻く情勢の変化
 - ・ 環境基本計画見直しの考え方
 - ・ 環境基本計画策定の流れ
- 2) 第三次四国中央市環境基本計画（骨子案）
- 3) 環境基本計画策定に係る意識調査の実施計画（案）

【質疑応答】

(委員)

社会情勢や環境政策を取り巻く変化が大きい中で、計画期間を10年間とする場合、中間見直しや5年ごとの見直しを行う考えがあるか。

(事務局)

国の第6次環境基本計画や愛媛県の第4次環境基本計画との整合を図る必要がある一方、県計画に合わせると計画期間が短くなる可能性もあるため、今後検討していく。

(委員)

第三次計画の基本目標案について、第2次計画から新たに追加された項目や変更点を確認したい。

(事務局)

現行計画の7つの基本目標を5つに再整理したものであり、分野を統合したものである。また、新規追加項目は「次世代エネルギーの導入促進に向けた検討」、「バイオマスの活用推進」、「地域活性化に向けた産学官連携の推進」の3項目である。

(委員)

市民・事業者アンケートについて、現行計画である第二次環境基本計画の策定の際に実施時から追加された項目があるか。

(事務局)

市民アンケートでは問 13、事業者アンケートでは問 7 として、市の環境施策に対する重要度・満足度を把握する設問を新たに追加した。

(委員)

第二次環境基本計画の策定時の市民・事業者の意識や取組状況と、現在の状況を比較できるような分析を行うのか。

(事務局)

第二次環境基本計画の策定時と同じ設問については、意識の変化や取組状況の推移を確認し、計画への反映や記載を検討する。

(委員)

次回の第 2 回環境審議会においてアンケート調査結果が示される予定か。

(事務局)

アンケート調査は 8 月中旬から 3 週間程度を予定しており、第 2 回審議会の開催時期が 9 月上旬と調査締め切り頃となるため、準備できれば速報として提示する予定である。

(委員)

環境を取り巻く状況は年々大きく変化していることを鑑みると、10 年という計画期間はスパンが長いと考える。状況変化に応じた柔軟な見直しの考え方や期間を検討してほしい。

(事務局)

承知した。

(委員)

基本目標案のうち基本目標 4 「快適で潤いのあるまちづくり」について、ウェルビーイングや人の健康に関わる環境保全だけでなく文化の継承等も含まれているため、基本目標のタイトルとの関係がやや分かりにくい。また、プラスチック問題や防災との関係についても、計画の中でどのように位置づけるか整理が必要である。

(事務局)

基本目標 4 には、大気汚染、悪臭、水質、土壌汚染、都市公園の緑化、景観保全などを含むことを想定している。

(委員)

市民アンケートにおいて、市の要望を自由記述で聞くだけでなく、補助金や市の取組に対する認知度、利用状況、改善要望など、選択肢を与える設問にすることで具体的な把握ができるのではないか。また、環境配慮行動について、省エネ設備や再エネ設備、自動車だけでなく、雨水タンクの設置、公共交通や自転車の利用など、より幅広い環境配慮行動を把握してもよいのではないか。

(事務局)

ご指摘を踏まえ、アンケートを修正する。

3 その他

(1) 脱炭素の取組について

【事務局から説明】

- ・ 国のカーボンニュートラルに関する動向
- ・ 本市の地域特性及び温室効果ガス排出量の状況
- ・ 四国中央市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づく取組
- ・ 重要取組課題
- ・ 令和8年度の新たな取組

【質疑応答】

(委員)

市域における温室効果ガス排出量のデータが令和4年度までとなっていることについて、コロナ禍後の排出量はどのように推移しているのか。

(事務局)

基礎データとなる自治体排出量カルテ等で公表されている最新値が令和4年度までとなっている。今後は経済活動の状況や企業の脱炭素の取組により、追加的な対策を講じなかった場合の推計線よりは下回るものと考えている。また、市内の地域特性を踏まえると、紙産業の生産力に排出量が左右され、丸住製紙の操業終了を踏まえると直近年度の排出量は減少することが見込まれる。

(委員)

排出量の減少要因について、生産量の減少によるものなのか、企業努力や技術革新によるものなのかを整理する必要があると考えるがどういう見解か。

(事務局)

区域における温室効果ガス排出量は、算定手法より人口減少や製造品出荷額等の活動量の推移が影響し減少していると考えますが、実際には各社の取組による効果もあると考えている。

(委員)

木質バイオマスを活用する際には、地域の未利用木質資源を活用し、地域内で循環する仕組みとすることが重要であり、輸入材等に依存した大規模発電とは異なる視点が必要である。

(事務局)

今後の施策検討において参考としたい。

議事終了後、進行を事務局に交代した。

4 閉会

事務局から、次回の審議会は9月上旬頃を予定しており、日程が近づき次第、改めて案内する旨の事務連絡を行い閉会した。

以上